

診療科のご紹介

耳鼻咽喉科 頭頸部外科

左から

さとう あすか
佐藤 明日香
医師

ふるかわ ちえこ
古川 智英子
専攻医

たちばな ともやす
橘 智靖
耳鼻咽喉科頭頸部外科部長

かない けんご
金井 健吾
耳鼻咽喉科頭頸部外科副部長

かりや あきひみ
假谷 彰文
医師

最先端治療で安心感を、 頭頸部外科のプロフェッショナル



● お仕事に関する相談会のご案内 ●

仕事を辞めると
決めてしまう前に
今できることは何か一緒に考えませんか？

完全予約制

お気軽に
お問合せ
ください

当院では次のような **就労に関する相談会** を実施しています。

ハローワークの
出張相談

・毎月第2火曜日
14:00~16:00
・完全予約制

社会保険労務士による
相談会

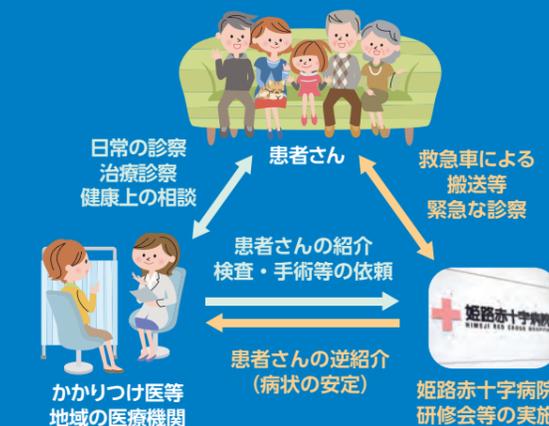
・毎月第4金曜日
13:30~17:00
・完全予約制

お問い合わせは

お電話または相談支援センター窓口へどうぞ
電話 079-294-2251(代表) 079-299-0037(直通)

＼ 姫路赤十字病院を受診される皆様へ / かかりつけ医をもちましょう

かかりつけ医とは、日常的な健康管理や風邪をひいた時、あるいは体調などに不安を感じた時、慢性期の継続的な治療が必要な時にかかる診療所や医院の医師のことです。入院や専門的な治療が必要な時には、かかりつけ医からのFAX紹介で大きな病院にかかりましょう。



姫路赤十字病院は、「地域医療支援病院」です。

姫路赤十字病院 地域医療連携室

TEL: 079-294-2251(代)



当科は今年より診療科名を耳鼻咽喉科から耳鼻咽喉科頭頸部外科に改めました。現在5人体制(橘、金井、假谷、佐藤、古川)で診療を行っています。鎖骨より上の領域(脳と眼を除く)の疾患を対象として、主に手術や入院治療を必要とする患者さんの診療を行っています。当科では頭頸部がん、甲状腺腫瘍に対する新たな治療法を導入しましたので、簡単に紹介させていただきます。

そのひとつが頭頸部がんに対する頭頸部アルミノックス治療(光免疫療法)です。手術治療が難しい頭頸部がんに対する治療の主体は薬物療法とされていますが、新たな治療法として2021年1月に光免疫療法が開発されました。本治療は2段階で構成されます。すなわち(1)薬剤の点滴、(2)薬

剤が結合した腫瘍細胞へのレーザー光の照射です。当科では、2023年4月より播州地区初となる本治療を開始しました。

もうひとつが内視鏡を用いた甲状腺手術です。甲状腺の手術は通常、鎖骨より上に皮膚切開を行います。当科では首の傷がなるべく目立たないように短い皮膚切開に努めて手術をしてきました。近年、頸部の皮膚切開を回避するため、頸部外の皮膚を切開し、頸部にアクセスする内視鏡下甲状腺手術が開発されました。従来の術式と比べ手術時間を要しますが、術後の創部は襟の広い衣服でも隠れることが大きな利点です。当科では2024年1月に姫路市内では初となる内視鏡下甲状腺手術を開始しました。

耳鼻咽喉科頭頸部外科部長 橘 智靖

——<患者さんへ>——

患者さんには病状や治療方針をなるべくわかりやすく説明し、安心して治療を受けて頂けるように心がけています。耳・鼻・のどのことで気になる症状がある場合には放っておくことなく、まずはかかりつけの医療機関に相談しましょう。そして当院での治療を希望の場合には、よりスムーズに診察を受けて頂くために紹介状を持参してご来院ください。





高原美貴看護副部長がシリアから帰国しました!!



IFRC (国際赤十字・赤新月社連盟) の要請により、シリアに保健コーディネーターとして派遣されていた、高原美貴看護副部長が、約1年間の活動を終え帰国しました。

高原看護副部長は平成11年にスーダンへ派遣されて以降、現在まで11カ国計17回にわたり国際救援活動に携わり、今回18回目となる活動を、中東人道危機救援事業の保健コーディネーターとしてシリアで展開してきました。



シリアってどんな国？

紛争前のシリアは安全で豊かな国でした。教育水準が高く、大学までの授業料は全て無料でした。また、食料自給率が100%を超える農業大国で、美味しく安い野菜や果物が手に入り、多くの旅行者をもてなしていました。2011年にシリアの政府軍と反政府勢力による武力衝突が本格化してから、多くの住民が国内外での避難生活を強いられ、危機的な状況下で暮らしています。さらに2023年2月6日、トルコ南東部のシリア国境付近を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生し、13年以上続く紛争を生き抜いてきたシリアの人々をさらに追い詰めました。



現在のシリアは・・・

紛争の続くシリアでは、建設用大型機械を動かす燃料なども足りないため、壊れた建物などは今もそのまま、インフラの復興も進んでおらず、人々に必要な医療を提供することが難しくなっています。



シリアでの活動内容

直接、保健医療サービスを提供するのではなく、SARC(シリアアラブ赤新月社)*が、最も脆弱な状態にある人々に、有効な支援を持続的に提供できるように、調整・支援する役割を行いました。

*SARC(シリアアラブ赤新月社)は、救援物資の配布、避難所の運営や炊き出し、巡回診療、飲み水の設置など、現場の最前線で市民の命をつなぐ活動を行っています。



帰国報告会



2024年6月4日(火)、帰院した高原看護副部長の帰国報告会が開催され、約1年にわたる活動について報告しました。

1. SARC(シリアアラブ赤新月社)の事業管理支援

- 右図の担当部門の戦略的計画/進捗確認/評価・報告 など
- IFRC(国際赤十字・赤新月社連盟)の支援する事業の進捗管理、報告書作成、会計管理、リスク管理
- 新たな支援に向けた財源獲得の交渉

担当部門

保健医療部門

Health (医療施設、移動診療、CBHFA、等)

WASH (水、トイレ、衛生)

EMS (救急車と救急法)

Community Services and protection Unit (こころのケア/保護)

2. 調整・協力・連携 (Coordination, cooperation and collaboration)

- SARC Health Coordination会議の準備、開催支援
- 作業部会への支援: 医薬品・診療材料 (Med-log) / 精神保健 (MHPSS) / 地域保健 (CBHFA)
- 保健省とWHO主催のHealth Coordination会議参加と情報共有
- WHO/UNICEF主催の「リスクコミュニケーション及び地域社会の積極的関与: RCCE Coordination」会議参加と情報共有
- 他のSARCを支援している赤十字社との調整 (デンマーク、ドイツ、ノルウェー、スイス、スウェーデン、フランス、カナダ等)



看護部の 「さわやかさん」たち 憧れへの挑戦、学びの日々



4月に看護師として入職しました。私は医療とは接点のない会社で働いていました。

しかし、コロナ禍をきっかけに自分の人生を見直したところ、前から憧れていた看護師に今挑戦しなければこの先ずっと後悔するかもしれないと思い、看護専門学校に入学することを決めました。看護学校の実習での多くの患者さんとの関わりを通して、看護師には、患者さんが病氣と付き合いながらも、心穏やかだと感じる生活が送れるようサポートする役割があると学びました。このように、その人がその人らしく生きることができるよう、一緒に考えたり支えたりできる、やりがいのある看護師になることができると嬉しく感じます。

今は先輩看護師と共に行動し、先輩看護師がどのような視点から看護を行っているのかや、安全で心地の良い看護ケアの提供方法など、日々たくさんのことを教わっています。

患者さんに優しく、テキパキと働く先輩看護師を近くで見ていると、私もいつかはあんな風になれるのかな・・・と少し不安になる時もありますが、1日でも早く患者さんの支えになれるよう、日々自ら学ぶ姿勢を大切にしたいです。

3階東病棟 三村 咲良

新人研修について

医療の高度化や医療安全に対する意識の高まりなどから、臨床現場で必要とされる臨床実践能力を看護基礎教育だけで習得することは難しくなっています。当院では、新人看護職員が安心して看護を提供できるよう、赤十字施設の看護部キャリア開発ラダーに沿って、各段階に応じた研修企画を立て実施しています。



今年度の4月5月の研修は、業務を覚えるよりも、一つひとつの看護技術（清潔ケアや排泄の介助、車椅子移動など）が自信をもって身につけるために、現場で先輩看護師と常に行動し学ぶことにしました。検査技術部の協力のもと採血の演習、検査前プロセスや検査データの見方についての講義や排泄ケア認定看護師によるオムツ交換など実践に即した研修も企画しました。先輩看護師も後輩を教えることを通して、共に学び成長しています。



看護師として、今スタートラインに立ちました。緊張や不安はあると思いますが、スタッフ全員でサポートします。焦らず自分のペースで、頑張りましょう。

看護師長（教育担当）松井 里美



職業体験イベント 「病院のしごと体験ツアー」を開催しました

次世代の医療人を目指すきっかけを作ることを目的に、2024年5月18日（土）、職業体験イベント「病院のしごと体験ツアー」を開催しました。応募いただいた近隣小学校の小学5・6年生53名に、6つの職業をA・Bコースに分かれて体験していただきました。

電気メスで豚肉を切る体験や、薬を処方する体験など医療を身近に感じていただける良い機会となったのではないのでしょうか。



ANA「しあわせの花 すずらん寄贈式」

2024年5月21日（火）、ANAによる「しあわせの花 すずらん寄贈式」を行いました。

ANAグループは昭和31年から全国の赤十字病院・施設に「再び幸せが訪れる」の花言葉を持つすずらんを寄贈する活動を続けられています。

今年は当院にもすずらんの花（ブーケ・切り花）とANAグループ社員のメッセージ入り「すずらんのしおり」を寄贈いただき、患者さんにすずらんの香りを楽しんでいただけました。



看護部だより

進化に対応するため日々研鑽

最新技術の進化で安全な手術環境を

手術室では年間約8,600件の様々な診療科の手術を実施しています。

最近の手術（外科治療）は患者さんに優しい低侵襲手術が主流となりつつあります。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」は、現在2機稼働しており各診療科において多岐にわたるロボット支援手術が可能となっています。整形外科脊椎手術においては最新型移動式CT「O-arm」が導入されたことで皮膚切開は従来より小さく、出血も少ない低侵襲手術が可能となりました。ま

た耳鼻咽喉科頭頸部外科では頭頸部癌に対する「癌免疫療法」を取り入れています。

日々進化する新たな治療に対応するために手術室看護師は日々研鑽を積み重ねています。また手術を受けられる方の不安や恐怖を軽減できるように術前訪問を行ったり、患者さんの病状や既往歴、手術に伴う合併症などを考慮した看護計画を立案し手術中の安全を守っています。これからも患者さんが安心して手術を受けられる環境を支えていきます。

手術室 都藤 八重美



検査技術部だより

知っておきたい検査内容

腫瘍マーカーってなに？

検査技術部 松井 隆

現在、がんを調べる検査には、CTやMRI、PET、超音波検査などの画像診断、組織を採取しての病理診断や体液などがん細胞の有無を調べる細胞診検査、または遺伝子検査に至るまで多種多様になっています。

その中で、私の部門で行っているのが腫瘍マーカー検査です。腫瘍マーカーを測定するには血液を遠心分離し、血清成分と血球成分に分け、血清部分を用いてその中のがん細胞（腫瘍）がつくる物質を免疫学的検査法にて計測します。

免疫学的検査とは、病気になると増える物質（抗原）に対して試薬（その物質に合致する抗体）を混ぜ、両方が引っ付いた（抗原抗体反応）物質の量を測定する検査方法です。



腫瘍マーカーは、血液を使用するため採血をするだけで測定出来ます。他の検査と比べても検査結果報告も速く、分析装置に検体が入ってからは

20分程度で結果が出ます。

腫瘍マーカー検査は、がんの診断の補助・診断後の経過観察・治療効果の判定を目的に実施します。また腫瘍マーカー検査にはがんの種類によってたくさんの項目があります。



など、他にも項目は多種多様で、院内で実施出来ない項目は院外の検査センターに検体を送って測定しています。

★腫瘍マーカーの値だけで一喜一憂しないで！

しかしながら腫瘍マーカーは、簡単に測定出来る分、肝障害、腎障害などの炎症性疾患、飲酒や喫煙などの生活習慣、薬の影響、又はがん以外の病気により、がんとは無関係に高い値になることがあります。腫瘍マーカーだけでがんの診断は確定できないため、検査結果をもとに他の画像診断や組織診断などと組み合わせで最終診断されます。



SAWAYAKA Daijiri

各部・各課のスタッフから健康や医療の情報について紹介します。

薬剤部だより

手洗い・うがいを徹底し感染予防

～ヒトメタニューモウイルスってどんなもの～

薬剤部 福田 朋子

ヒトメタニューモウイルスは、2001年に発見されたウイルスです。検査できるようになったのは最近ですが、昔から人の間で流行してきた呼吸器系のカゼのウイルスの一種で新しい驚異的なウイルスと言うわけではありません。

1歳前後～5歳くらいまでの子供に流行する傾向があり、2歳までに50%の子どもが、10歳までにはほぼ100%の子どもが感染すると言われています。また一度の感染では免疫がつかないため何度でも感染します。このウイルスは

一年中感染しますが、3月～6月に一番流行しやすく、症状はRSウイルスと非常によく似ています。感染すると高い熱が2-5日ほど出て、激しい咳き込みが続くことが多いです。残念ながらまだ特効薬がなく、咳や発熱の症状を和らげる対症療法がメインになります。感染すると2週間くらいは、つばや鼻汁にウイルスが排出され続けるため、その間は他の人にうつす可能性があります。手洗いとうがいをしっかりと行いましょう。



- 3月～6月に一番流行しやすい
- 症状はRSウイルスと似ている
- 感染すると高い熱が出る
- 激しい咳き込みが続く

栄養課だより

三原則で守る健康！

食中毒を防ごう

栄養課 石原 梨絵子

食中毒を引き起こす主な原因には「細菌」と「ウイルス」があります。

ウイルスは食べ物を通じて体内に入ると、人の腸管内で増殖し、食中毒を引き起こします。一方、細菌は温度や湿度などの条件がそろえば食べ物の中で増殖し、その食べ物を私たちが食べることによって食中毒を引き起こします。

6～8月は温度や湿度が高くなり、細菌の好む環境になりやすいため、細菌による食中毒が増えます。



家庭での食中毒を防ぐのは、食材を選んで調理し、摂取する皆さん自身です。食中毒予防の三原則「**つけない、増やさない、やっつける**」をご存じでしょうか。



- つけない・・・調理前や肉、魚、卵を取り扱う前後には必ず手指を洗う。
- 増やさない・・・食材は購入後速やかに冷蔵庫に入れる。
- やっつける・・・食材は十分な加熱を行う。器具の洗浄・乾燥・消毒を行う。

食中毒予防の三原則を守り、安心・安全に、美味しい食事をいただきましょう。

看護学校だより

医療のグローバル化を目指そう!

姫路赤十字看護専門学校 外国語教育の取り組み

姫路赤十字看護専門学校 専任教師 小野 真弓

当校では、医療英会話の向上を目指した外国語教育に力を入れています。1.2年次「外国語Ⅰ・Ⅱ」のアクティブ・ラーニング学習から3年次「異文化論・グローバルヘルス」へと赤十字教育が発展できるようなカリキュラムになっています。ネイティブの講師による講義もあり、「使える英語」「コミュニケーション力の強化」「外国人の方に声をかけられること」を目指しています。また、赤十字の活動に限定せず、NPOチャイルドドクタージャパンの「ケニアの人々との交流」をオンラインで実施し、異文化理解を深めています。

昨年度は、1年生が英語サークルを立ち上げ、英語に触れる機会が増え、2年生は日本医学英語検定試験に挑戦し、2名が4級認定を取得しました。今年度からは、より看護に直結しているTOPEC看護英語試験の合格を目指しています。

今後も異文化交流の機会を積極的に取り入れ、学生が楽しく外国語を学び続けられる学習支援を行っていききたいと思います。



3年生 異文化論・グローバルヘルス



2年生 外国語Ⅱ



リハビリテーションだより



もしも自分の生活圏で災害が起こり避難を余儀なくされた場合、どのように自分や家族、周囲の人々を守ったらいいのか。今回は「生活不活発病」についてお話しします。

地震等の災害を契機として生じる廃用症候群を「生活不活発病」といいます。災害直後の避難所生活、その限られた空間の中で体を動かさずにいることで、病気や外傷がなくても徐々に生活機能全体が低下してきます。さらに避難所生活が中・長期的になるにつれ心身の疲れがたまり、生活機能低下は悪循環の中進行してしまうと考えられます。特に高齢者はハイリスクなのですが、周囲も気づいて安静に過ごしてもらいがちになります。

予防のポイント

- 1 毎日の生活の中で活動的に動く時間を作る。
- 2 楽しみや役割を持ち社会参加の機会を持つ。
- 3 歩きにくくても杖や補助具を使ってできるだけ自分の足で歩く。
- 4 体を動かさなくなると感じたら周囲に相談する。
- 5 「安静第一」「無理は禁物」と思い込まず、少しずつでも動く努力をする。

前回、具体的な運動をお伝えしましたが、寝ていても座っていても運動はできます。周囲からの働きかけも重要となります。ボランティアなど周囲の方と一緒に工夫し、声を掛け合って皆で生活不活発病を防ぎましょう。



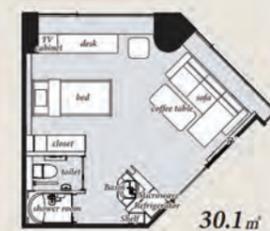
特別個室をリノベーションしました

当院では、現在、経年劣化によって悪化する療養環境の改善を目的として、各種病室のリノベーションを実施しています。

姫路市制100周年を記念して制作されたふるさと賛歌「交響詩ひめじ」で詠われている「姫路のあけぼの」をイメージし、「人と医療の夜明け」をテーマとしたインテリア・デザインをリノベーションのコンセプトとしています。

今回ご紹介させていただく特別個室は、「あけぼの」が彩る素材と色、柔らかな光が生ま出す上質な空間を演出しており、ホテル・ライクな安らぎと柔らかにくつろげるお部屋となっています。また、シャワーとトイレの別室仕様、壁掛けの大型テレビ、独立洗面台、ペンダントライト、電動カーテン、メディカルコンソールを覆い隠した照明付き家具など利便性を追求した室内設備となっています。

施設用度課 東山 浩和



設備		
50型テレビ	電子レンジ	トイレ
デスク&チェア	冷蔵庫	ユニットシャワー
2m幅のソファ	電気ケトル	24型テレビ
小机	ヘアドライヤー	保冷庫

特別室A (差額 27,500円 消費税込み)

相の会

AINOKAI

相の会は、すべてのがん患者さんと家族が対象の患者会です。

「相の会」のはじまり

「がんを生き抜くためには、同じ体験をした人との交流が必要。同じ悩みを持つ仲間と集まり、わきあいあい(相相)と過ごし、気持ちを楽にしてがんと共に生きる力を持ちましょう」と訴えかけた婦人科の患者さんの思いがはじまりです。

現在の「相の会」

平成15年に発足し、当初は婦人科の患者さんのみが対象でしたが、他科の女性患者さん、男性患者さんと少しずつ対象を拡大し、現在は当院への受診の有無に関係なく「すべてのがん患者さんとその家族」を対象としています。

お互いを思い合う気持ち

毎月1回2時間実施しているがんサロン「相の会」では、がん患者さんだけでなく、患者さんのご家族も参加されます。

今回は『患者さんとご家族 お互いを思い合う気持ち』をテーマに語り合ったことを報告します。

ご家族から、告知後、気持ちが沈んでいる患者に「前のように明るくなってほしい」という願い、また別のご家族は、告知後も気丈に過ごしている患者に「もっと弱音を吐いてほしい。頼ってほしい。」という願いが語られました。

同じ「家族」でも、それぞれの願いがあります。

ご家族の願いに対して、患者の立場の参加者からは「家族に心配かけたくない」「たくさん水分を取った方が良いけど、夜中にトイレで目覚めると家族を起こしてしまうので水分を取るのもためらってしまう」「普通に接してほしい。今まで通りの空気感がいい」という声がありました。

お互いを思い合うが故に気持ちがすれ違うこともありますね。

相の会は、患者さんご家族がそれぞれの本音を安心して語れる「場」です。お互いの思いを知り、考える良い機会にもなります。

患者さん、ご家族の参加をお待ちしております。

がん相談員 井上 豊子



「相の会」についてのご相談、ご質問等は総合相談支援課(079-294-2251代)または相談支援センターで受け付けています。お気軽にどうぞ。